



VISUAL LANGUAGE & VISUAL LEARNING OVERVIEW OF RESEARCH BRIEFS #9

研究からわかること

# 目で見える言葉と 目で見える学習

聞こえなくも大丈夫  
～ことばを育てる～

出典 Visual Language and Visual Learning Science of Learning Center. (2013, June).  
Family Involvement in ASL Acquisition. (Research Brief No. 9). Washington, DC: Charlotte Enns and Liana Price  
同センターの許可をとって翻訳し、HPにアップしたものです。

翻訳 松岡和美(慶応義塾大学 教授) / 岡典栄(明晴学園 国際部長)

発行人 玉田雅己

特定非営利活動法人 バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター

URL <http://www.bbed.org/>

お問い合わせ [info@bbed.org](mailto:info@bbed.org)

公益財団法人キリン福祉財団平成29年度助成事業



特定非営利活動法人 バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター  
Bilingual Bicultural Education Center for Deaf Children

## はじめに

米国にあるろう者のための教育機関ギャローデット大学では、ろう学校や研究センターを併設して聞こえない・聞こえにくい子を手話で教育する方法を研究し実践しています。その研究成果は「手話をL1(第一言語)とするために必要な12の研究成果」として、誰にでも読めるようにわかりやすく紹介されています。BBEDでは、ギャローデット大学の許可を得て、家族が果たす役割についてまとめた「Research Brief #9」を翻訳しました。レポートの中で登場するASL(American sign language)をJSL(日本手話/Japanese sign language)に置き換えて読んでみてください。聞こえない・聞こえにくいお子さんに確かな第一言語を獲得させるために家族は何をすればいいのか、具体的な方法も紹介されています。ぜひ参考にしてください。

VISUAL LANGUAGE & VISUAL LEARNING  
OVERVIEW OF RESEARCH BRIEFS #9 原文



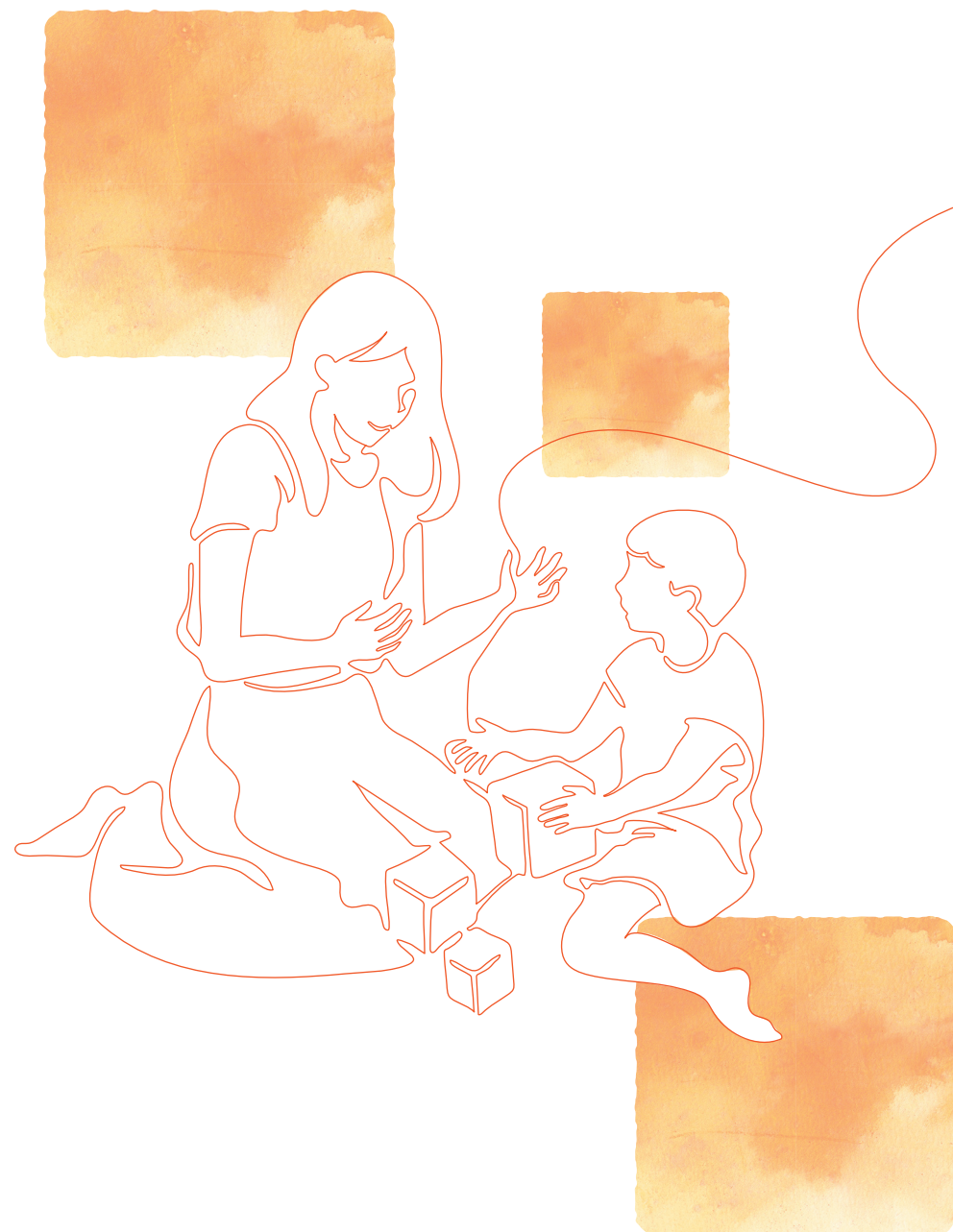
### 重要な研究成果

#### アメリカ手話(ASL)の習得に家族が果たす役割について

- ろう児の言語獲得には、親の積極的なかかわりがとても大切です。
- 音声か手話かに関わらず、発達の初期に言語を身につけることは、人と関わる力・ものごとを認識する力・読み書きの力の発達を促します。
- アメリカ手話(ASL)のような、自然言語とみなされる手話言語は、世界各地のろうコミュニティの中で育まれてきたものです。
- ろう児の手話の発達は、音声言語の発達とよく似ています。違う点よりも似ている点のほうがはるかに多いのです。
- 言語学習には、臨界期があります。ASLを後から(5歳以降に)学んだ子どもは、大人になっても流暢さに欠けますし、間違いも多いままになります。
- ASLの学習が、音声言語の発達にマイナスの影響を与えるという考えに学術的な根拠はありません。
- ろう児に合った言語学習を進めるためには、親への情報提供が不可欠です。

## 目次

ことばを「教えること」と「学ぶこと」	01
「発話」と「言語」の区別	03
ASLならではの特性を知る	04
言語獲得における類似点と相違点	06
親子のかかわりの重要性	07
ASLの習得順序	09
目で見る言語の発達を促す活動	10
日常生活の中でASLを使う	11
親や教育関係者が参考にできる情報	15
VL2研究をわかりやすく解説／ 家庭や教室で役立つVL2の情報	16



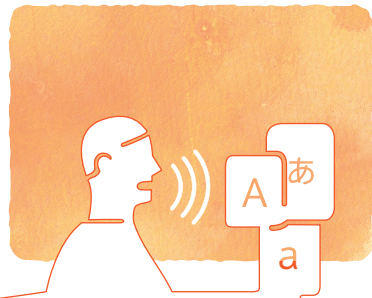
## ことばを「教えること」と「学ぶこと」

聴者の親（聞こえる親）が、生まれたばかりの赤ちゃんに言語を教えようと考えことはまずないでしょう。聞こえる赤ちゃんは、お腹の中にいるときからことばを聞くことができますし、生まれた瞬間から、周りの音を聴き、それを頭の中に取り込んでいるからです。

言語は自然な成長過程にしたがって発達し、特別に教えなくても知らないうちに身につけてしまうものです。しかし、ろうの赤ちゃんは、聴者の親が考えるような、音声言語に囲まれる環境にはいません。ろう児をもつ親の多くが、自分の子どもとどうやってコミュニケーションをすればよいかわからない状況におかれています。そして手話や、音を増幅する機材を使ったコミュニケーション方法について、対立する情報や誤解を招く情報にさらされることもあります。

けれども、どんな言語を使うにせよ（手話でも、音声でも、その両方でも）、ろう児の親は、子どもにことばを教え、言語発達を助けるために積極的に関わる必要があります。自然言語である手話（たとえばアメリカ手話や日本手話）を使う家族は（耳と口の代わりに、目と手を使う）「新しい」言語を学ぶこととなります。親が子どもの言語発達のステップを理解し、年齢に合ったペースで手話の発達を促す取り組みを心がけることが大切です。周りにいる聴者とろう児がうまくコミュニケーションすることができるように、親が積極的にかかわることも大切です。ろう児の親が自ら新しい言語を学習するとともに、ろう児に合った言語学習の環境を整えるためには、親への情報提供が欠かせません。

このパンフレットは、ASLの習得についての親の基本的な理解を進め、ろう児のASLの発達や学習を後押しするために、家族がどう関わればよいかを提案するために作られたものです。



## 「発話」と「言語」の区別

「発話」と「言語」は、同じ意味で使われることが多いのですが、実際には全く異なりますので、きちんと区別することが重要です。「発話」は、口を動かして音を作りだす力にすぎません。それに対して「言語」というのは、単語・文法・会話のルールを理解し、使いこなす力です。「言語」に含まれるものは、私達が知っている単語と、単語を使ってどうやって文を作るか、そして考えや気持ちをことばで表し、それを理解する力です。「発話」は言語を表す方法の一つですが、他の方法もあります。つまり「言語」は、手話や書くことでも表現することができます。ASLなどの手話では、自分が言いたい内容を表現するために、顔の動きや手型、手の動き、位置を用います。

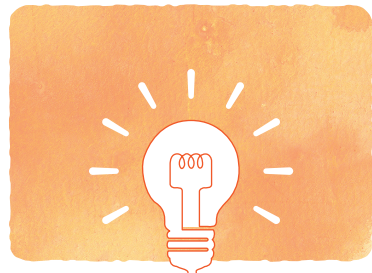
ASLが音声言語と同じように使えることは、これまでの研究ではっきりしています。ASLを使って、お願いや指示を出したり、話し合いや説得をすることができますし、感情を伝えたり、冗談を言ったり、詩をつくったりすることもできます。(発話ではなく)言語は、友達を作り、自分の考えを深めて新しい知識を得て、学校でよりよく学ぶことに重要な役割を果たします。それは音声言語を身につける子どもにも、ASLのような手話言語を身につける子どもたちにもあてはまることです。次に説明するように、手話は耳と口の代わりに目と手を使う言語であるため、独自の性質もあります。



## ASLならではの特徴

ASLは、カナダとアメリカのろう者が使う第一言語です。ASLは、英語などの音声言語に基づいたものではなく、全く別個の独立した言語システムです。他の言語と同じように、ASLは独自の文法規則があり、それによって複雑な考えを伝えることができます。

ASLは視覚言語なので、音声言語とは表現方法が異なります。音声言語の場合、音は一つずつ順を追って発声されます。聞き手は二つの音を同時に十分に聞きとることはできませんし、大きい音は他の音を遮ってしまいます。こうした聞き取り方に対応するため、音声言語は、時系列(一つの音が、前の音に続く方法)で情報が構成されています。一つ一つの音が連続して単語となり、単語が連続して文となって、意味を加えたり変えたりします。それに対して、視覚情報は、空間を使って異なる情報を同時に受け取ることができます。視覚では、ものがあつた場所を情報として使ったり、二つのものを同時に見たりすることができます。手話は私達がものやその動きを見るときに利点を活かして、文法的な情報を表現し、その意味を柔軟に変化させて表現します。音声言語が人間の音の聞き取り方に合わせた形になっているように、ASLは、目が視覚的な情報を取り込み、理解するやり方に合わせた形になっているのです。



## ASLならではの特性を知る

手話言語と音声言語で目を使うか耳を使うかの違いがあっても、大切なのは、言語学習はすべて脳の働きによって行われるということです。情報のインプットが目でおこなわれても、耳でおこなわれても、また情報を発信するのが口であろうと手であろうと、手話も音声言語も、脳では同じように扱われています。

次のセクションで説明しますが、言語の発達プロセスは、手話でも音声発話でも文字でも基本的に同じです。



## 言語獲得における類似点と相違点

ASLでの言語獲得のプロセスについては、ろうの親のもとに生まれたろう児の家庭(デフファミリー)で、研究がおこなわれてきました。そのようなろう児は早い時期からASLに触れることができるので、聴児の言語獲得と同じパターンと発達段階を経て言語を習得します。1歳になるまでに、ろうの赤ちゃんは手話に注意して見る力を身につけますが、これは聴の赤ちゃんが自分の周りで話されている言語の音を聞き分けるようになるのと同じことです。ろうの赤ちゃんも手話の「喃語」を発します。手話の単語に似た手や指の動きをとりとめなく動かすのです。1歳ごろに、赤ちゃんは最初の手話単語を発します。最初のところは、手話単語が大人のものより単純な形になっていることもあります。これは、聞こえる赤ちゃんが、「ウォーター(水)」と言いたいときに「ワワ」のように発音するのと同じです。その後、手話単語を組み合わせて、短い文を使いはじめ、その後、より複雑なASLの文を習得します。5歳までには、ろう児は、ほとんどのASL構文を習得してしまいます。この発達は、聞こえる子どもが幼稚園に入るまでに自分の言語で話せるようになるのと同じです。ろう家庭のろう児は、ASLの文法規則を大人とは違うやり方であてはめて子ども独特の表現を作ったりしますが、それも英語を習得する子どもがやるのと同じことです。

## 親子のかかわりの重要性

様々な研究から、親や兄弟、友達、他の大人とコミュニケーションをする機会が多い子どものほうが、言語の力を高められることがわかっています。ろうの子どもも、聞こえる子と同じように、自分の身の回りで起きていることを知るために親や友達とスムーズにコミュニケーションをとれるようになる必要があります。ろう児と一緒にASLを学んでいる親の中には、子どものコミュニケーション相手として自分たちでは力不足だと感じてしまう人もいます。けれども、これまでの研究で、自分ができる精一杯の方法で、親がずっと手話を使い続けることが重要だということがわかっています。乳児の時期から手話を使うことが、心の発達にも言語の発達にも長期にわたってよい影響をもたらすことも分かっています。5歳以下の子どもは、外国語を学ぶ大人よりも早く言語を習得することが多いので、子どもが親のASLのレベルを追い越してしまうこともあるでしょう。確かに、小さいときからきちんとしたネイティブの言語にふれることは重要ですが、それだけではなく、親子の絆を十分に育むためには、親に受け入れられている、親に認められていると感じる子どもの気持ちも大切です。もし親と子どもが互いのコミュニケーションに負担を感じてしまうと、子どもの自己肯定感に悪い影響が出る可能性があります。子どもの発達段階に合っていれば、ことばを使うものや使わないものを問わず、様々な遊びを通して子どもの気持ちを支え、安心感が持てる親子関係を築くこともできます。しつけ、遊び、言語の指導と学習は、親子のやり取りの中でバランスよく行う必要があります。ASLの習得段階の節目でよく観察される表現を次に説明しますが、このような情報を親が持つことは、その親自身、またろう児のASLスキルの向上に役立ちます。



## ASLの習得順序

ここでは、ASLのおおまかな習得順序を説明します。ろう児によってASLに触れる機会に大きなばらつきがあるため、正確な年齢を決めることはできません。以下の表は、あくまでも大体のパターンです。

※アメリカ手話習得のもっと詳しいチェックリストである「ろうと難聴の子どもたちの視覚コミュニケーションと手話発達のマイルストーンチェックリスト」が、2013年秋にVL2から発表されている。

### 子どもの年齢とASL獲得の発達の目安



0-1才児

- 手話単語が、意味を伝えるシンボルとして使われていることを理解する
- 手話の喃語を使う
- 手話の初語(主に名詞)を使う



1-2才児

- 相手や自分の言いたい事をやりとりするには、視線を向けることが必要と理解する
- 簡単な指示に従う
- 50以上の手話を使う
- そこにあるものについて手話で話す
- 二つの手話を組み合わせたり、指さしと手話を組み合わせる
- 「誰」や「何」を使った質問を理解し、自分からも質問する



2-3才児

- 250以上の手話を使う
- 指文字を使う
- 否定形を使う(「いや」「なにもない」「したくない」)
- 感情を表現する(うれしい、悲しい、腹が立つなどの手話)
- ASLで日常の体験や出来事について話す



3-5才児

- ASLの会話が続いている間、視線を向けている(適切なときに話に入ったり、発言したり、視線の向きを変えたりする)
- 「どこ」「どうやって」「なぜ」を含めた質問を理解し、自分からも質問する
- 主語・述語・目的語を含む簡単な文を使う。複雑な文も使い始める
- ASLを使って、ものごとの仕組みやゲームの説明、ストーリーを語る



## 目で見える言語の発達を促す活動

言語発達をうながす親子のやりとりは、同じものについて話したり、子どもが言ったことを繰り返したり、そこから話を広げたり、子どもにわかりやすい表現に言い換えたりなど、自然におこなわれるものです。これと同じ親子のやりとりは、手話でももちろんできるのですが、その場合は視覚のコミュニケーションに合った方法を考える必要があります。例えば、親がおもちゃの名前を手話で教えているときには、子どもが(おもちゃではなく)親の方を見ているように気をつけましょう。目の言語を使うことで、親と子どもは、視線や注意を正しい方向に向けることを学んでいきます。この「目による関わり」は、手話の獲得プロセスの一部です。ろう児をもつ親は、目による関わりや、相手の注意をひく方法を、ろうの大人のやり方を見て学ぶことができます。ろう児の肩を繰り返し軽くたたき、子どもの前で指をひらひらさせる、子どもの視界に入る場所に移動する、などがその例です。子どもの視界が区切られないようにするやり方は、例えば、a)絵を見る時は、子どもが絵を十分に見る時間に配慮し、子どもが親の方を向いてからその絵について話す、b)子どもと本を読むときには、本のページの上で手話を表し、絵と手話の情報が両方とも子どもの視野に入るようにする、などです。このような配慮の仕方を学び、お子さんとのコミュニケーションに取り入れる具体的な方法についての情報を集めましょう。目で見える言語にあったやり取りの方法を親が理解することで、いろいろなゲームや本や遊びを、ASLにあったやり方で使えるようになります。

## 日常生活の中でASLを使う

子どもにことばを使う機会は、日常生活の中で確保できます。まだ言葉が理解できない赤ちゃんでも、親が自分がしていることを言葉にすることはよくあります。例えば、「今から昼ご飯をつくるんだよ。サンドイッチを作ろうっと。なにがいるかな。パンとチーズと…」という感じです。親の言葉かけは、家でも、お風呂の時間でも、お料理をするときでも、スーパーで買い物をしているときでもできます（ショッピングカートに入っている赤ちゃんが目があるときがチャンスです。）このような機会を利用して、ろう児に身の回りのことを手話で語りかけることができます。

言語学習には、楽しくて実生活に結びついた内容を心がけることが大切です。例えば、買い物に行く前に、これから行くお店について手話で話すことができます。また、お店の広告チラシから商品の写真を切り抜いて大きな紙に貼り付けて、お買い物リストを作ることもできます。子どもの年齢によっては、お買い物リストを子どもに持たせて、写真の商品を探させることもできるでしょう。手話をする前に、視線をあわせて、子どもの注意が自分に向けられていることを確認してください。商品をお買い物袋に入れるのを子どもに手伝ってもらいながら、袋に入れる商品と一緒に数えることもできます。また帰宅後に、子どもにお店で買った物を家の中の決まった場所にしまってもらうこともできます。日常生活で手話を使うコツは、次にあげるように、他にもいろいろあります。





新しいゲームやおもちゃを与えるときには、まずは子どもに自由に触らせるといいでしょう。もしたくさん部品があったら、子どもはゲームのやり方をおぼえる前に、一つ一つの部品をさわって遊びたがるかもしれません。それは自然な反応です。子どもは、まずいろいろと試して好奇心を満足させてようやく、遊び方の説明を聞く余裕ができます。子どもが落ち着いてから、親が働きかけて、ゲームをしたり、本を読んだりしましょう。



子どもと本と一緒に読むという親御さんも多いと思います。まだ子どもが小さい場合(生後12-24か月)、使う手話単語を一つだけにしたり、文を短くしましょう。絵を指さすのも大切なことです。その際、子どもがまず絵をみて、親に視線を向けたことを確認してから手話を表しましょう。この月齢の子どもが座って一緒に本を読むのは難しいかもしれないので、いろいろなタイプのベビーチェアを使うのもよいでしょう。



子どもの言語獲得の初期では、物や人の名前以外に、上/下、中/外、大きい/小さいなどの反対語をよくおぼえます。このようなことばの意味は、遊びの中で教えることもできますが、日常生活に取り入れることもできます。階段を使うときやエスカレーターに乗るときに、手話で「上」や「下」を表してみましょう。またお店で買ってきた食べものや洋服を取り出すときにも、「りんごを(袋から)出して」「靴を(箱から)出して」と手話で表してみてください。



話し手がいつ交代するか学ぶことは、言語を使って人と関わる力を伸ばすために大切です。ゲームで遊んでいるときに、「私の番」「あなたの番」などはっきりわかるように手話で表すとよいでしょう。これによって、会話は人が交代で話すものという基本ルールを身につけることができます。



小さい子どもは、かくれんぼの要素のある遊びが好きです。親子で交代して家の中にある物を隠してみましょ。まず親が、子どもが見つかりやすいところに隠すとよいでしょう。親が隠している間は、子どもは自分で目隠して見えないようにします。隠し終わったら、親は子どもの肩をたたいて手話で聞きます。「さておもちゃはどこでしょう？」子どもはおもちゃを探しに行きます。見つかったときには親が「見つけたね!」と声をかけます。次は子どもが隠す番になって、遊びを続けます。



小さい子どもは、すぐに状況が変わる遊びを楽しんでいると感じます。たとえば、小さいものを動かす遊び(車や動物のおもちゃ)、交代で遊ぶもので、ものが崩れる遊び(ブロックや輪になった部品を積み上げるスタッキングリングなど)です。簡単なボードゲームは、順番で物事を行うことを学んだり、同じ色や数字をペアにすることを学ぶのに使えます。



小さい子どもと遊ぶときは、ルール通りにやる必要はありません。子どもが自分の新しいやり方でゲームをやりたいとすることがあります。子どもの思考力や創造力を伸ばすチャンスです。年齢の小さい子どもの遊びやお話は数分程度になるかもしれません。子どもが集中できる時間が長くなれば、もっと長い時間、ゲームや本に集中することができるようになります(手話単語が増えて言語が発達することで集中時間は長くなることもあります)。ゲームやおもちゃ、お話をを使う時に一番大事な目的はコミュニケーションをとることです。楽しく、面白い内容でASLを使ってみせる機会が持てれば大丈夫です。



## 親や教育関係者が参考にできる情報

ASLの自然な発達により詳しく研究されるにつれて、親によるろう児の言語発達支援に役立つ具体的な情報も増えています。最近の研究結果からわかっている重要ポイントは下の3つです。

1

手話言語と音声言語の発達プロセスがとても似ていることから、両方とも脳の中で同じように扱われているという結論が引き出せます。

2

手話言語と音声言語は同じように脳の中で扱われているので、子どもが手話言語を習得するときにも、音声言語と同様のことばの体験が必要です。つまり、早くからことばに触れる機会が十分あり、いろいろな相手と様々な内容で対話ができる環境が大切です。

3

視覚を用いて子どもとつながる方法や、子どもの気持ちを支えるコミュニケーション、そしてASLの習得を促すことばのやり取りがどのようなものを理解することで、ろう児を持つ親は早い時期から子どものことばの体験を豊かにすることができます。そのために、親のASLの学習と、子どものASLの発達をよりよく進めるための知識や言語活動についての情報源や手引書が必要ともいえます。

私どもではクリックでいろいろな操作ができるオンライン手話辞典や、動画による説明など、ろう児の支援に役立つ情報をVL2ペアレント・ツールキットとして公開する予定です。キットは、下記のウェブサイトからダウンロードできます。

[www.vl2parentspackage.org](http://www.vl2parentspackage.org)

## VL2研究をわかりやすく解説

全米科学財団・視覚言語と視覚的学習(VL2)学習科学センターは、ろう児の親・教育関係者・ろう児や難聴児にかかわる関係者への情報提供のために、研究成果を簡単にまとめたパンフレットを作成しています。様々なパンフレットを通して、重要な発見、関連する研究活動の様子を踏まえ、親・教育関係者・専門家に対して正確な情報に基づいた提案を行っています。今ごらん頂いているパンフレットでは、ろう児および難聴児のASL獲得のために家族が果たす役割について説明しています。

## 家庭や教室で役立つVL2の情報

全米科学財団・視覚言語と視覚的学習(VL2)学習科学センターは、ギャロデット大学にあり、科学的な根拠に基づいた情報を、一般の方にわかりやすく提供するための基礎データを提供してきました。科学的な手法で得られた研究成果を解説・公開するために使われてきた知見は、数々のVL2研究所で集められたものですが、それによると、目を使う言語に早くから子どもがふれることは、目を使って情報を受け取る力と、ものごとを認識する力を高めることがわかっています。ASLと英語のバイリンガル環境は、他の言語のバイリンガル児同様にメリットがあること、目を使った手話の音韻の感覚は、幼いろう児が英語のリーディング能力を身につける際に役立つこともわかっています。幼い聴の子どもが英語の文字を読む際に、英語の音韻の感覚が役に立つのと同じことです。

VL2では、教育関係者・医療関係者・教育政策の関係者・保護者・研究者・そして一般の方々に向けて、教育的かつろう児やご家族の人権に配慮した情報をわかりやすく解説したうえで公開しています。詳しくは、以下のウェブサイトをご覧ください。

[vl2.gallaudet.edu](http://vl2.gallaudet.edu)  
[www.vl2storybookapps.com](http://www.vl2storybookapps.com)  
[www.vl2parentspackage.org](http://www.vl2parentspackage.org)